

単元構想シート

学部・学年	高等部・2 学年
教科・単元名・時数	【数学】「分数」（高等部 1 段階） 全 6 時間

1 児童生徒の実態

- 折り紙やひも、計量カップや軽量スプーンを使って、半分や、さらに半分にした大きさを作ったり量ったりしながら分数の意味や表し方について学んでいる。
- 折り紙やひもの長さ、ペットボトルの量などで、分数の意味や表し方について実感的に理解することができている。
- 繰り上がりや繰り下がりのない整数の加・減法ができる。
- 整数の計算においては、機械的に行うことはできるが、計算の意味を具体的に捉えることはできていない。
- 見通しをもって学んだり、学んだことを日常生活に生かしたりすることが苦手な生徒が多い。

2 単元目標

- 分数の意味と表し方、簡単な分数の加法、減法の意味を理解し、同分母の分数の加法及び減法の計算ができる。（知識・技能）
- 数のまとまりや数を構成する単位に着目し、大きさを比べたり、計算の仕方を考えたりするとともに、日常生活に生かすことができる。（思考力・判断力・表現力）
- 既習の数の見方や表し方などをもとに、分数の意味と表し方、計算の仕方について主体的に考えたり、日常生活の場面などで大きさを分数を用いて表したりすることができる。（学びに向かう力・人間性等）

3 単元における見方・考え方

数のまとまりや数を構成する単位に着目して、分数の加減の計算を、1 つ分の分数をもとにして、分子同士の加減で考えることができる。

4 単元構成の工夫

- 同分母のたし算、ひき算において、分母はそのまま分子をだけを足せばいいという形式的な手続きを暗記するのではなく、単位分数のいくつ分と捉えて考える過程を大切に、『分数の表し方』における「単位分数をもとにした分数の大きさ」の理解を深めるようにする。
- 同分母の分数のたし算、ひき算の方法においては、話合いや発表を通して他の生徒のいろいろな考え方に触れ、自分自身の考えをまとめる場面を設定する。
- 既習の分数の意味や表し方、整数や小数のたし算、引き算について相互に関連付けながら考える場面を設定する。

5 単元計画

題材名	時数	学習する主な内容	主体的・対話的で深い学びを実現するための指導上の工夫	評価の観点		
				知・技	思・判・表	主
分数の意味	1	・分母と分子のしくみ	・単元の最初に分数の加減法を学ぶことについて見通しをもたせ、中学部 2 段階で学んだ分数の意味や表し方について振り返る場面を設定する。また、整数や小数の加減法と分数の加減法の違いを予想する場面を設定する。	○		○
分数の表し方	2	・単位分数をもとにした分数の大きさ ・分数の大小	・水の量や長さなど身近な物を例にして、単位分数あたりのいくつ分かで大きさを把握したり、比較したりする。	○	○	
分数のたし算、ひき算	2	・同分母の分数のたし算 ・同分母の分数のひき算	・話合いや発表を通して他の生徒のいろいろな考え方に触れる機会を設ける。 ・形式的な手続きでの計算になっていた場合には、前時の振り返りを行う。	○	○	
分数の計算の活用	1	・同分母の分数のたし算、ひき算の文章問題	・分数の計算が日常の生活にも使えることに気付くことができるよう問題を工夫する。 ・異分母の分数のたし算やひき算はどのように考えることができるかについて考える。		○	○

○本単元と関連する既習内容

○既習内容の習得状況
(知識・技能、思考・判断・表現)

○障害等による学習の困難

○資質・能力の三つの柱
○各資質・能力の関連

- ・本単元で習得した知識・技能を活用し、どのように思考・判断・表現できるようになることをめざすか
- ・その過程で、工夫して取り組んだり、自分の考えを述べたりする等、どのような学習に取り組む態度を引き出すか

○見方・考え方の想定

- ・学習指導要領解説等を参考に、本単元において、子どもたちが「何に着目するか」「どのように考えるか」を具体化

○単元を通じた手立て

○「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を引き出す場面の設定

○各題材における評価の観点

- ・「知・技」は「知識・技能」
- ・「思・判・表」は「思考・判断・表現等」
- ・「主」は「主体的に学習に取り組む態度」を示す

○「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を引き出すための指導上の工夫

単元構想シート

学部・学年	高等部・2学年
教科・単元名・時数	【数学】「分数」（高等部1段階） 全6時間

1 児童生徒の実態

- 折り紙やひも、計量カップや軽量スプーンを使って、半分や、さらに半分にした大きさを作ったり量ったりしながら分数の意味や表し方について学んでいる。
- 折り紙やひもの長さ、ペットボトルの量などで、分数の意味や表し方について実感的に理解することができている。
- 繰り上がりや繰り下がりのない整数の加・減法ができる。
- 整数の計算においては、機械的に行うことはできるが、計算の意味を具体的に捉えることはできていない。
- 見通しをもって学んだり、学んだことを日常生活に生かしたりすることが苦手な生徒が多い。

2 単元目標

- 分数の意味と表し方、簡単な分数の加法、減法の意味を理解し、同分母の分数の加法及び減法の計算ができる。（知識・技能）
- 数のまとまりや数を構成する単位に着目し、大きさを比べたり、計算の仕方を考えたりするとともに、日常生活に生かすことができる。（思考力・判断力・表現力）
- 既習の数の見方や表し方などをもとに、分数の意味と表し方、計算の仕方について主体的に考えたり、日常生活の場面などで大きさを分数を用いて表したりすることができる。（学びに向かう力・人間性等）

3 単元における見方・考え方

- 数のまとまりや数を構成する単位に着目して、分数の加減の計算を、1つ分の分数をもとにして、分子同士の加減で考えることができる。

4 単元構成の工夫

- 同分母のたし算、ひき算において、分母はそのまま分子をだけを足せばいいという形式的な手続きを暗記するのではなく、単位分数のいくつ分と捉えて考える過程を大切にし、『分数の表し方』における「単位分数をもとにした分数の大きさ」の理解を深めるようにする。
- 同分母の分数のたし算、ひき算の方法においては、話し合いや発表を通して他の生徒のいろいろな考え方に触れ、自分自身の考えをまとめる場面を設定する。
- 既習の分数の意味や表し方、整数や小数のたし算、引き算について相互に関連付けながら考える場面を設定する。

5 単元計画

題材名	時数	学習する主な内容	主体的・対話的で深い学びを 実現するための指導上の工夫	評価の観点		
				知・技	思・判・表	主
分数の意味	1	・分母と分子のしくみ	・単元の最初に分数の加減法を学ぶことについて見通しをもたせ、中学部2段階で学んだ分数の意味や表し方について振り返る場面を設定する。また、整数や小数の加減法と分数の加減法の違いを予想する場面を設定する。	○		○
分数の表し方	2	・単位分数をもとにした分数の大きさ ・分数の大小	・水の量や長さなど身近な物を例にして、単位分数あたりのいくつ分かで大きさを把握したり、比較したりする。	○	○	
分数のたし算、ひき算	2	・同分母の分数のたし算 ・同分母の分数のひき算	・話し合いや発表を通して他の生徒のいろいろな考え方に触れる機会を設ける。 ・形式的な手続きでの計算になっていた場合には、前時の振り返りを行う。	○	○	
分数の計算の活用	1	・同分母の分数のたし算、ひき算の文章問題	・分数の計算が日常の生活にも使えることに気付くことができるよう問題を工夫する。 ・異分母の分数のたし算やひき算はどのように考えることができるかについて考える。		○	○